

# 中北委員・新野委員からのご意見

---

「洪水及び土砂災害の予報のあり方に関する検討会」

(第3回)

令和3年5月17日

# 中北委員・新野委員からのご意見

## 【論点2】

### (中北委員)

- ・国土交通省のXRAINレーダ雨量計による豪雨の事前検知の取り組みについて、こうした情報が広く一般にも提供されるようになるよう、国による予報の提供のあり方の検討、仕組みづくりを進めてほしい。
- ・洪水予測アンサンブルが実現されつつあり、地球温暖化も踏まえるとアンサンブル予測は今後より重要になっていく。地域の方々がこのような高度化した情報を活用できなくて困るといことがないよう、滞りなく提供されるようにすべき。
- ・また、研究者は様々な手法・モデルによる予測技術を研究・開発しており、国によるシングルボイスとして予報を提供される際に、モデルアンサンブルの組み込みなど、これら手法・モデルの多様性が失われることのない制度設計とすべき。
- ・土砂災害はローカルな現象である側面が強いため、洪水のように全国へ一般化することがなかなか難しく、CL改善等の取り組みを進めていくことは理解できる。

### (新野委員)

- ・降水をもたらす現象には、一部の台風のように数日前から進路や降水量の予測が比較的容易なものもある一方で、線状降水帯のように半日前からの予測も難しいものもある。従って、洪水の予測については、降水をもたらす現象に応じて予測の難しさや予測可能時間に差があることに留意する必要がある。早期に警戒を呼び掛けたい場合には、アンサンブル予測を用いて最もリスクの高いメンバーを活用することも考えられる。
- ・研究者や民間事業者の研究・開発を国のオペレーションに生かしていけるよう協力・連携を求めていく場合には、テストベッドを作っておくことが重要。また、予測モデルの相互比較も有用と思われる。
- ・土砂災害はローカルな現象である側面が強いため、個々の地域を対象とした予測の研究は如何に全国へ一般化していくかが重要。また、土壌雨量指数にインプットする雨の予測にアンサンブル予測を組み込むことによるリスクの把握や、進路予測のばらつきの小さい台風などの場合はより長時間の雨の予測を用いることにより、早期の防災情報の提供に繋がられるのではないかと。
- ・土砂災害の暫定基準の設定の改善に関しては、過去の災害データを収集し検証していくことが重要。

## 【論点3】

### (中北委員)

- ・研究者へのヒアリングにおいて欲しい河川等に関するデータのリストアップが示されていたが、これらデータについては民間事業者にも同様のデータを提供すべき。
- ・民間事業者等への河川データの提供について、提供を実施する機関の位置づけをしっかりとっていくことが重要。

### (新野委員)

- ・事務局から示された方向性については、大きな違和感はない。